

モデル施設 実践報告

2年目で見えてくる ノーリフティングケア

～法人全体の協力体制の構築に向けて～

社会福祉法人 ひまわり会 介護老人保健施設 ほ乃ぼの園

1年目で取り組んだこと

開始当初の状況

- ・福祉用具の数が少ない
- ・高齢の職員は移乗介助できない
- ・腰痛予防への意識は低い



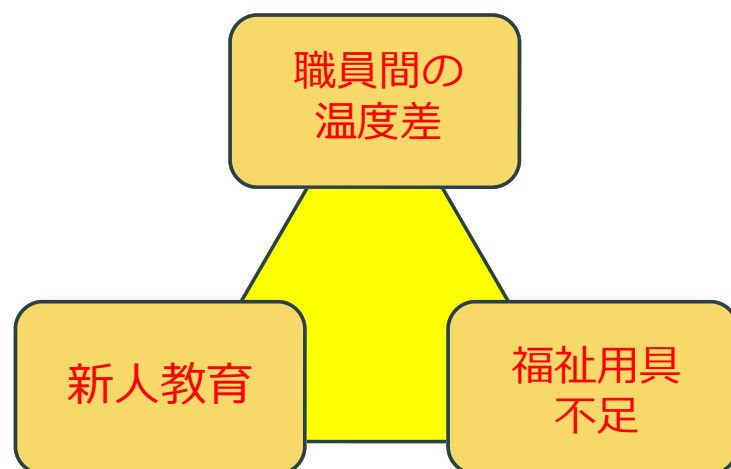
1年間
取り組んだことで



ノーリフティングケアの必要性と目的の理解
福祉用具の必要性
腰痛予防の意識

芽生え始めた！！

2年目の課題



この3つの課題に注目し取り組んだ

課題1) 福祉用具の不足

利用者様の介助増による
腰への負担



特浴での腰の負担



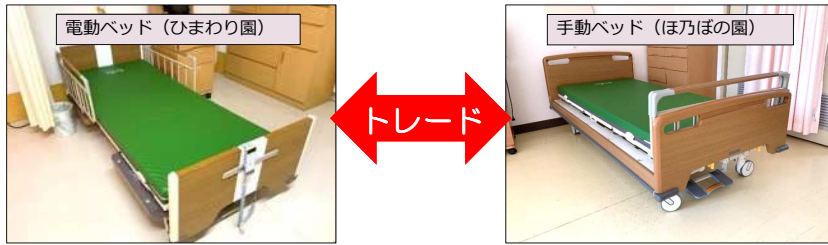
トランスファー場面での
腰への負担



足りない！！
どうしよう

施設間での協力体制

居室ベッドの有効活用



入浴用ストレッチャー購入まで

ひまわり園見学
業者によるデモ

多職種による
検討



温度差を減らす取り組み

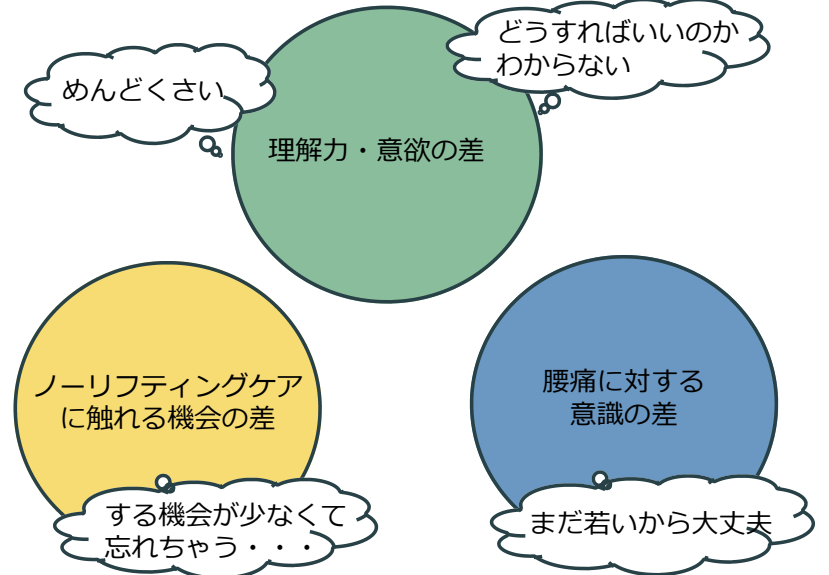
自己流を無くす
ケア統一の徹底
どうしていいのかわからない

ノーリフティングケア委員会で
道しるべを作る

個別ケア動画
作成



課題2) 職員間の温度差



アンケートの声

動画を作ったことによる職員より

- ・動画を見てすごくイメージしやすかった
- ・わからなくなったら、何回でも見れる
- ・動画だけじゃわからないから、直接教えて などなど

Googleフォーム活用



1人1人の意見に対して
コメントを返すことで

さらに職員の
モチベーションアップ



課題3) 新人教育

R 5年4月 新入社員研修 (ひまわり園・ほ乃ぼの園合同)

ノーリフティングケアの必要性と目的の理解
身体の使い方
福祉機器の使用方法

実施

新人教育プログラムの定着に向けて

法人で統一したカリキュラムを作成し、
ひまわり園と協力しながら、取り組めるよう
職員全体の技術向上を図る

研修風景

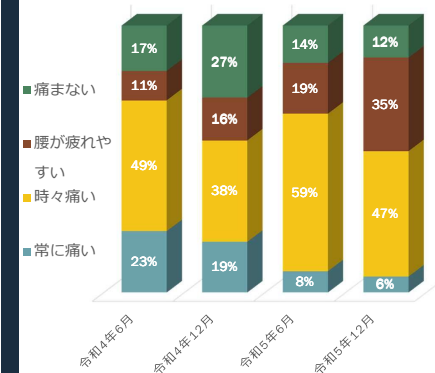


教育体制を統一することで、ひまわり会全体の技術のレベルアップにつながるとともに、人事異動等円滑な組織運営に繋がるように検討していく。

今後の展望として

ほ乃ぼの園	法人全体
①ノーリフティングケアに対する知識・技術のレベルアップ	①法人の委員会を定期開催し、両施設間の情報交換を密に
②リスクマネジメントの強化	②人材育成強化のため教育体制の確立
③職員全体の方向性の統一	③新人教育プログラムの強化

介護職員の腰痛調査



職員の声

常にも痛い → 時々痛い

・今まで入浴介助が抱え上げる場面が多く、腰に一番負担をかけていましたが、今は楽に介助できるようになりました。また、利用者様の表情を見る余裕ができました。 60歳代女性

腰が疲れやすい → 時々痛い

・「私はまだ若いから平気」と思って、業務効率をあげようとスピードを追求した結果、腰を痛めてしまった。

30歳代男性

腰痛調査の結果を基に、定期的に個人面談を行い、個人に合った新たな腰痛対策を検討していく

最後に

徹底した周知・誰でも理解できるように取り組んだことで、法人での協力体制・職員の意識や技術の向上につながった。

今回、同法人のひまわり園とタッグを組んだことで、法人全体が同じ方向を向くことができた。

「安全に働ける職場」「安心安全なケアの提供」のためこれからもノーリフティングケアを継続していく

利用者様や職員・ひまわり会に関わる方たちみんなが
ハッピーになれるように！！

